

斐太後風土記

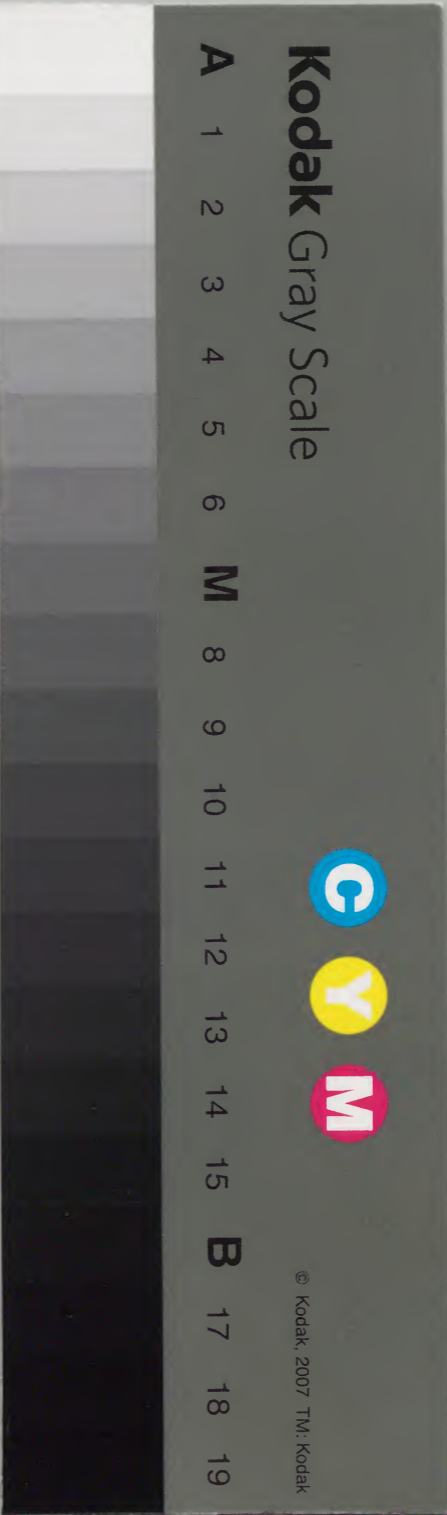
吉城郡廣瀬郷

卷之十



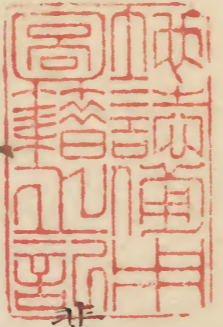
地
八

内閣文庫	
番號	和 22604
冊數	20 (9)
函號	174 191



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

向子



斐太後風土記卷十

廣瀨郷 吉城郡 七郷之一

富田礼彦謹撰

廣瀨郷ハ和名抄ニ飛驒國荒城郡名張郷有是ナルベシ中昔何
頃ニ名張郷ヲ廣瀨郷ト更タリケム詳ナラス舊名一村名ヲ一
郷ニ及ボシタルナルヘシ又抄ニ伊賀國名張郡名張郷アリ○和訓栞ニ

日本紀ニ隱ノ字ヲ訓リカクルノ古語ト見ユ○万葉集一三十一吾勢ワカセ枯
波何ハイツコ所行良武已津物ウツラム隱乃山乎カサマ今イマ香越等カコエラム六ソノ外ソノ数多見エタリ
今ノ郷名モ上廣瀨村廣瀨町村下廣瀨村ニ村有其ヨリ出タルニヤ侍ラム

廣瀨郷 八箇村

- 三川村
- 上廣瀨村
- 廣瀨町村
- 村山村
- 藤塚村
- 金桶村

名張村 瓜栗村

高三千二百九石一升九合

御年貢

三分二金納

三分一米

家百戸

人二千四百四十餘人

諸山 松 楠 栗 杉 所植 雜木

茯苓 松茸 湿茸 雜茸

宮川

大野郡下切村ヨリ廣瀨郷ヲ西北ニ流
古川大野打江村ニ至ル

但 宮川ノ水湾ヲ離レテ
山中ニ住ルハ瓜栗村ニ云ニ

魚

鱈

伊具比

鱒

鮭

安治米

鰻

鱒

羊魚

雜魚

廣瀨郷

古所謂
名張郷

八吉城郡

古所謂
荒城郡

内ニテ本府ニ最近ク且中昔國府ヲ

モ移サレシ郷ニシアレハ郡中ニテハ筆頭ニ立最初ニ神社出ム一ハ

勿論ヲ延喜式神名帳

郷村ハ記
サレズ

荒城郡五座ノ内ニ當郷ニ座ス神社ヲ記セ

サル甚不審年来疑ヒ居シニ文化年中吉田家ノ社人彼是来テ五座
神社當時所在不詳ヲ探索ムトシテ古来

中荒城神社ヲ除テ外四社ノ古ノ明證ヲモ不調シテ巴カ隨意サマク

牽強附會セシヨシ聞居シニ安政年中郡代增田頼興来リテ

飛驒國誌撰集ノコトヲ礼彦ニ命セラレ其頃吉城郷木曾垣内村ト

高原郷船津町村ノ古神社トハイト不審ト云レタレ其的證ノ出ルマデハ

トテ其終サシ置レケルニ其頃召レテ連ニ江戸へ帰ラレシカ今般亦

此後風土記編集ニ就テ五座ノ神社ヲ鮎見郷ハ當昔何ノ故カ
有テ省カレツラムハ

配分テ見ルニ此郷ニノミ載ラレタル神社ノ坐サルハ弥不審思ハレテ



増田頼興ノ疑ハレタル吉城郡ノ最末ノ高原郷船津町村ニテ持イ
 ツク大津神社ノ古シヘ荒城郡ノ真最初ニ出タル其次第ノ本末カヘルハ
 心得ヌト思ヒテ廣瀨郷中ニ大津ノ地名ヲ探索ムレ氏更ニ見エサル故
 熟思フニ近村^{カハ}本府^コニ國都神ヲ祀リタレハ天神ヲモ祭ニアルニ決リ大野
 郡ヲ天野郡ニ誤書タルモ彼是アルニ依テ一畫ヲ加ヘテ見レハ是ノ國中
 ニ名高キ村山ノ天津神社^{天ヲ誤テニテ御座マスラム}
スベテ字畫ヲ減スハ古未板
下筆者割嗣子等ノ癖ニテ
 本母ヲ本母ニ作廣瀨ヲ度瀨ニ作り又イマヌ板行成ガル以前
 古未次ノニ傳寫ノ誤モアリツラム
 サテ其ヨリ次第ヲ分テ
 見ルニ次ニ荒城郷荒城神社其次ニ深河郷高田神社又其次ニハ
 高家郷阿多由太神社最末ニ遼遊郷栗原神社<sup>此順列ハ延喜式
和名抄其外古書</sup>
方今ノ高帳
郡帳皆同シニ座テ其次序ノ嚴正一ハ古今同一格ニテイサカモ後人ノ

米二百八十石
 稗二十六石四斗
 大麦二十二石
 小麦四石
 大豆十三石
 小豆二石
 粟二石
 菜種一石二斗
 菜子二百目
 麻十八目
 楮二百目
 杏栗
 大マユ三月
 小マユ五月
 稲三十束

三川村 サムカハ 縦十町 横町

高四百十五石二斗一合

山林段別木数不詳

家四十二戸

人二百二十餘人

産物 小大 繭 桑 楮 野菜 壁砂 布曝 荏 菜種

東方下保村へ半里

西方川

高山一里半

南方下切村字逆巻隔川八丁

北方上廣瀬村へ半里

村名義ハ三川ハ三八倍亭 寒川ノ意ナルベシ 大野郡三枝郷マダ及ヒテ宮川ト川上川ト小八賀ト落合アヘルニ

ヨリテ三川ノ云ヘルハ イトツタナシ 神名式ニ相模國高座郡寒川郡 サムカハ 寒川神社又下總

差引スベキワザニ非ズ年来ノ疑惑モ初ノテ氷解スサテコソ延喜年中

迄ノ國宰タテノ國中ノ神社ヲ能撰テ 自然荒城郡ハ奏連ラルニ心ヲ一郷一社ニ當レリ

用ヒラレタルトイリ、明白ニ見エテ感ルニ餘リアレカル義ヲ文化

年中村ノ愚民等ニ教諭置タラハ闇ト彼社人等ニ欺カレザラ

マシラ

○廣瀬郷ノ土地ハ大野郡灘郷ト三枝郷トニ引續タル地理ナレハ高度モ

大略相似タリトイヘニ二里許川下ノ郷ナレハ聊低シ○霜モ大体灘郷ニオナシ

○雪ハ冬ノ宿雪翌年春ニ成テ消尽スフハ灘郷ニ同シ然レ降積ルトハ一尽許

深

○四時氣候モ灘郷三枝郷ニ大概同シ

紀名所圖會五卷日高郡
六子寒川莊十四村アリ

國千葉郡ニモ寒川神社坐和名抄ニ下野國ト讚岐國ニ寒川ノ郡モアリ

抑此川ハ流来ル小八賀川ハ鞍嶽クダガキノ火ヒニ布池フヰヨリ流出ル古ニニ布川ト云ミトソ

郡ニ出ルモ縁アルコノケスサレド此流未越中国新川和名抄今ハ訛リテニヒ川郡ト云トゾ 水脉ニテイト寒冷ナル水ナレバ催馬樂ノ哥ナレ飛馬井ノ水モカクアラハカ

往古ヨリ鱒モ年魚モ小八賀川ハハ上テス中首逆卷ノ大堰掛ラ皆宮川ト川上川

ハ上ルトニサレハ寒川ナルト著シ倭姫世記ニ其河水寒有支則寒河

止号云々紀傳世七其川ハ鉄氣アルニヤ凡テ其川ノ砂礫ハ青色嵐色

薄墨色等相和テ渡雁橋ノ隔ニテ宮川ノ流合ヒ二三町モ流末

マテ半岸ハ其砂押流寄タルヲ寒川砂ト唱テ今世モ高山其

他ヨリ其ヲ荷ヨセテ砂壁ニ塗ルハ平生ノ事ニ

産土神タチガヲ劔緒神社

祭神熱田大神御靈

祭日

氏子

境内一段三畝歩除地

文德天皇御紀文德第三云仁壽元年正月甲戌朔庚子世七詔天下諸

神不論有位無位叙正六位上

清和天皇御紀三代第二十七云貞觀十七年十二月五日甲寅授飛驒

國正六位上本母國都神劔緒神並從五位下

光孝天皇御紀同第四十五云元慶八年四月廿七日戊子授飛驒國

從五位下劔緒神從五位上ト見エタリカク三朝マデ泰モ天恩ヲ蒙リ

天ヘルハイトモ有クタク尊キトニナム○荏野冊子給社考云劔緒

神ツルギヲ又ハタチヲト訓ベキカ吉城郡廣瀨郷三川村ニ劔宮ト

云社アリ是歟○縣令増田頼興ハ此神社考ハカネテ江戸ノ鳩子

檢校保已一 水郎忠實 多知賀遠ナルベト云リト云レキイトメデキ古言ニ
古事記上卷八千矛ノ神ノ御歌ニ多知賀遠母伊麻太登加受豆云
記傳十一云大刀之緒ニ緒ハ身ニ着佩料大神宮式神虫ニ玉
纏ノ横刀一柄 柄長七寸 長三尺六寸 柄頭横着銅塗金長三寸八分頭頂着介
鏝一勾着血色組長一丈阿志須惠組四尺柄着勾金長二尺金釧
形一双著緒紫組長六尺云々拾遺集ノ神樂歌ニ石ノ上フルヤ壯夫ノ
大刀モカナ組緒垂テ宮路カヨハム又物ノ名ラガノ 筑紫ヨリ此マデクレド
ツトモナシ大刀ノ緒革ノ端ノミゾアル三代實錄ニ貞觀十六年檢非違
使ノ請ニ依テ横刀之緒五位以上ハ同用唐組六位已下並用綺新羅
組等ト定メラレシコト見ユトアレバ組緒ハ然ヨハベキ一論ニシカルラ

元祿檢地帳マ々飛州志且虫曆年中抄録ノ除地帳ニ組權現宮地
ト記シ土人モ皆シカ云ハ組緒神社ノ組ノ字ノミニ據テ緒ノ字ヲ省キテ
唱来ニテトルニ足ラス神名式ニハ大和國宇多郡組主神社伊豆國
田方郡組刀乎夜尔神社組刀石床別神社越前國敷賀郡ト
周防國佐婆郡トニ組神社坐トモ同神トモ思ハレズ故ク思
廻ラスニ書紀景行天皇四十年云々日本武尊更還於尾張即
娶尾張氏之女宮簀媛而淹留踰月於是聞近江膽吹山有
荒神即解劍置於宮簀媛家而徒行之尾張風土記ニ熱田
社考昔日本武尊巡歷東國還時娶尾張連等遠祖宮酢媛
命宿於其家夜頭向厠以隨身劍掛於棠木遺之入殿乃驚更

征取之、劔有光如神、不把得之、即謂宮酢姬曰、此劔神氣、宜奉

齋之為吾形影、因以立社、由鄉為名也、熱田綠起、モ大凡此意ナリ

文長ケレバ省キツ
記傳サハ十九委シ 書紀神代卷云、是号草薙劔、此今在尾張國若

湯市村、即熱田祝部所掌之神是也、又景行天皇五十二年條下、

初日本武尊所佩、草薙横刀、是今在尾張國年魚市郡熱田

社也、神名帳、尾張國愛智郡熱田神社、名神古語拾遺、其草薙

劔、今在尾張國熱田社、未叙礼典也、熱田、内ニ別ニハ劔神社アリ、式ニアル是也
是ハ和銅元年、勅以テ新ニ神劔ヲ造ラシメ

別ニ齋祭ラル、
社ナリトゾ 釋日本紀、日本武尊留其形影、天叢雲劔為此神

體、今正殿二字、相並東西東殿曰土用御殿、奉安草薙劔也、西

殿曰正御殿、配享五神、日本武尊中座也、猶クハシキフハ玉禰
ハ卷ニ見ユ 何レノ

古書ニモ如此アリテ、熱田大神ハ、彼神劔ヲ拜祭レル之、其ヲ此寒

川祭レル由ハ、熱考ルニ、舊事紀國造本紀、尾張國造志賀高穴

穗成勢朝、以天别天火明命十世孫小止與命、定賜國造、天皇斐陀國造、

志賀高穴穗朝御世、尾張連祖瀛津世襲命孫、大八椅命、定賜國造、

ト見エテ小止與命モ、大八椅命モ、天火明命ノ神胤ニテ、系圖ハイト近キ
別記

親眷ニ然ルニ、大八椅命京ヲ離本土ニ来リ任玉ヒテ後國中ヲ治ムル

ニハ深ク心ヲ配種々思慮タマヒケルニ、先朝景行御世、熊襲反キマツ

リケレバ御親征アソバン數多ノ凶賊ヲ幸シテ尽伐ヒシ玉ヒテ後又反賊

アリケレハ當時ハ日本武尊ニ武勇ノ人ヲ從ハシメテ川上集帥、其他

ノ敵等ヲ悉亡シ玉ヒ其後マタ東夷多叛邊境騷動シ時モ亦

日本武尊ニ吉備武彦大伴武日連等ノ武勇ノ人ニテ副テ征伐ノ
時伊勢ノ大神宮ヲ拜玉ヒテ尊ハ倭姫命ニ草薙ノ劔ヲ請玉ヒテ
千辛万苦テ東夷ヲ悉ク征伐テ凱旋マシマシケルハ尊ハサテ今ノ
武勇ニ依レテ專神劔ノ靈威ナメリト思計リテ斐陀國內ノ鎮護
ニモイカデ如是神劔ヲハ得マホシク思ハレケム幸哉近キ親戚ノコト
ナレバ尾張國造ヘ言遣テ覓求ラレケムニ小止典命トテモ京ヲ遠
離テ彼國ヲ治ムニハ同事ニテ熱田宮ニ留マシマス神劔ナレバ私ニ
如何ニテ為方ナク故劔太刀身ニ副フ緒ヲ解テ贈ラレケムヲ大ハ
倚命イタク喜ビテ是ナム熱田大神ノ御靈實ナルトテ拜祭ラレ
ケルカ原始ニテ後世ニ其實ヲ顯シ劔緒神社ト稱シナラム其ヲ

國造ノ居處ヲ離レ此寒川ニ祭ラレシハ館ノ近所ハ水田ノミアマタ
有テ其處ニ社ヲ建テハ村民ノ妨ニナレハ府ヨリ程遠カラズシテ此
寒川ハ宮川トニ
布川トノ岸上高地水利ナキ故水田ニ成ガタキ原野ナリケレ
ハ此處ニ祭ラレシニヤ侍ラム府ヨリ諸ツルモ遠カラネハ便モヨカリツラム後世小
八賀川ニ大堰ヲカケ逆卷ヨリ長樋モテ水ヲ引テ畑ヲ
田ニ成テ水田ヲアマタニ作レルハ金妻家國中平治天正年中ヨリ
後ノ事ニテ上世ハ畑ハイサカ開キタリトモ水田ハナカリツラム

其ヲ國造ノ代ニ祭ラレシ
上世ニハ劔緒神社トノイ唱又ハルカ後代ニ國守ノ世ニモ然トナヘツル
故ニ三代實錄ニモ延喜式神名帳ニモ其マ、載ラレケム其後數百年
ヲ歷テ源平ノ戦ヨリ乱世ニ成テハ僧等ノミ物シリカホニ西部ヲ言ハヤ
シケレ氏此社ニハ本地佛ヲ附會セムヤウモ無カリツラム村民ハ僧等ニ
化導サレテ仏ヲノミ尊信シテ神社ヲ顧モセデ星霜ヲ経シマニ

社モ荒果終ニ御靈實ヲモ失ヒ奉リ後ニハ劔緒ノ古稱ヲサハ
申傳ヘス成果ツラム其後アマタノ乱世ヲ歷テ天正年中金
森家ノ領國ニ成テ村々ノ社寺ヲ改ケル頃古キ書附ヲ見出
テ劔字アリ下字ヨメサル由申出ケルヲ諸國ニ劔神社ト稱ハ
座ノトテシカ唱ケムヲ又其後元祿檢地ノ頃ニ如此記セシ故ニ
享保ノ飛州志ニ劔權現ト記セシニヤ侍ラム熱田ノハ劔宮ヲ引
タレト本末
タガハリ カル尊キ國ノ鎮護ノ神ニシマセハ歷朝叡聞マシクテ
如此神階ヲ進メ賜ヒケムイリ可恐コトニコソ

縣^ノ神社

祭神六御縣大神
境内二畝十二步 除地

祭日 氏子

寒川村ハ宮川ト小八賀川、岸上ニ在テ川ハ低ク地ハ高クコトサレ
後ノ高山ハ水無山ト名ニサハ負ヘル山ニシヤレハ水利ナキ故ニ上古ヲ畠ノ
ミ墾開キテ作りケム其後國造來リテ國府ニ住シテ後其近村ニハ
水田ノミナレバ此村ニ課セテ千葉ヲ作ラセテ國造ノ館内ノ朝
饌ヲ食ノ菜ニ納サセテ用ラレケムサル故ニ京ニテ御縣ノ神ヲ祭リ
玉フ例ニ習ヒテ此村ニモ國造ヨリ此神社ヲ祭ラレケム○古事記
傳<sup>サレ卷キ九丁
大縣小縣兼下</sup>云縣ヨ阿賀多ト云ハ上田^{アガタ}ニテ元ハ畠ノ一ニ云ハ水ノ
ツカスヲ畠トモ上田トモ云水田ヨリハ高ク上リタル田ニ神代卷ニ高
田万葉集<sup>ナラニ
三上</sup>ニ上ル種^{タネ}蒔^{マキ}ナトアリ云ハ上卷八千子神ノ御歌ニ夜麻
賀^カ多^タ尔^ニ麻岐^{マキ}斯^シ阿多^{アタ}泥都岐^{ニツキ}云ハ下卷高津宮段ノ大御歌ニ夜

麻賀多^{マカタ}爾麻祢^{マニ}流阿^ル素那^{ソナ}母^モ云、ナトアル夜麻賀多^{ヨマカタ}ハ山阿賀多^{ヤマカタ}ノ
謂ナルニ求^{マギ}シ苗^{イナ}蔣^{イナ}ル青菜^{アヲ}ナドアルヲ以テ山ナル畠^ハナルヲ知ルベシ
畧^{リョウ}祈年祭^{イナヒノマツリ}ノ祝詞^{イハコト}ニ御縣^{ミケン}爾坐^{マス}皇神^{スメノカミ}等^{タテノマヘニ}前^{マヘニ}爾白^{シラサク}高市^{タカチ}葛木^{カキ}十市^{トシ}志貴^{シキ}
山邊^{ヤマノヘ}曾布^{ソフ}登^{ノボ}御名^{ミナ}者^ノ白^{シラ}豆^{マメ}此^{コノ}六^{ムツ}街^{マヅメ}縣^{ケン}爾^ニ生^ナ出^デ甘^{アマ}菜^ナ辛^{カラシ}菜^ナ乎^ヲ持^テ參^リ來^ル
皇^{ミコ}御^ミ孫^ノ命^{ノミコト}能^ノ長^{ナガ}御^ミ膳^ノ能^ノ遠^{トホ}御^ミ膳^ノ登^{ノボ}聞^ク食^フ故^ニ皇^{ミコ}御^ミ孫^ノ命^{ノミコト}能^ノ宇^ウ豆^{マメ}
乃^{ソレ}幣^ヒ帛^{ヒト}乎^ヲ称^ナ辞^ハ竟^マ奉^ル久^ク登^ル宣^ス月次祭ノ祝詞ニモ如此アリコレニ甘^{アマ}菜^ナ辛^{カラシ}菜^ナ云^ハト
アルヲ思^フフヘシ○神名式ニ大和國添下郡添御縣坐神社葛下郡
葛木御縣坐神社城上郡志貴御縣坐神社高市郡高市御縣坐
坐神社十市郡十市御縣坐神社山邊郡山邊御縣坐神社^{并大月次}
新^ニ古事記傳^{イコトニ}廿九卷六十丁此六御縣ハ殊^ニ近^ク京畿^ニ在^リテ朝廷^ノ御料^ト

フ陸田物ヲ作テ貢進ル地ナルガ故ニ其神ヲ重ク祭リ玉ヒテカク祈年ノ
祝詞モアル之カ、レハ縣ト云ハモト街^ミ上^{アガタ}田^タヨリ起^リレル名ニテ入^リ其^ニ准^テ
諸國ニアル朝廷ノ御料^ノ地ヲモ云ト見エマリ○神名式ニ伊勢國
鈴鹿郡縣神社但馬國城崎郡縣神社出雲國出雲郡縣神
社遠江國濱名郡^{トガタ}英多^{ヒコ}神社アリ京畿ノ神社ハ御宇ヲソヘ
諸國ノハ省ケリ

・按ニ此寒川村ハ上代ハ畠ノミ故ニカク縣神社ヲ建テ國造ニ來テ
時、イツキ祭ラレ此村ヨリハ國宰々々ノ朝餐夕食、菜ヲ國府へ
收納シニ依テ縣ノ宮ノ名ニヤ負ツテムサテ其ノ千數多ノ星霜ヲ
經テ天正年中ヨリ後下保村界ニテハ八賀川ニ大堰ヲ為テ下切

村逆卷へ用水ヲ引上其水ヲ長樋ヲ作り小八賀川ニ懸渡シテ
此川へ引テ畠ヲ悉ク水田ニ俗ニ畑田ナリト云ニ為シテ其ヨリ以來稻ノミ
作り来ヌレハ縣神社ハ今ハ水田中ニ座テ何ノ神トモ知人ナク縣社ハ
名ノミ残リテ村民モ何故祭リシ神トモ知ラズ國人モ凡テ
縣ノ名義ヲシラヌハ最クチラシキコトニケリ見ル人ゴトニ上古
ヨリ如此水田多キ寒川村ト思フベシ後世ノ形勢ヲモテ
上代ノ事實ハ測量カタクナム

産土神白山社

祭神白山比咩神 三社大神 祭日
境内一段四歩 除地

此寒川村ハ枝村モナク一村一處ニマトマリテ村民何レノ家ヨリ

彼二社へ拜礼スルニモイト便ヨキ村ナルニ如此三社マテ祭レルハ
隣村ノ千光寺ノ檀家ナリシ頃千光寺ト美濃國郡上ナル
長瀧寺ハコトニ親シク交レル由ナレハ彼僧等ニ勸ラテ祭ル
淫祀ナラム

普賢堂

本尊普賢菩薩
境内三畝歩 除地

是モ古シヘ千光寺ノ僧等ニ進メラレテ建シナラム

南春教寺

東本願寺宗高山照蓮寺末
永正十癸酉年間基僧道和
本尊阿彌陀如來 元祿七甲戌年捨地名受道場寺惣左門
境内屋敷二畝七歩 同十二己卯年除地其後寺号ヲ唱年代不詳
長樋字カマキ 方言大樋ト云 長二十二間 幅四尺 深一尺二寸

是ヲ懸渡セシ八年曆不詳按ニ乱世中ハカ、ル事モナルマジク

仙足石ノ事ハ、
飛騨國三川
村トイフ處ニ
仙足石トイフ
有大石、面ニ
足ノ跡アリト
イフ
國中十種ノ
名石、中也
蒲八十村遺
編ニ出
高山ヨリ越中へ往還
道上ニ在テ諸人ニナ見テ
知ル所ナリ



金森領國ニ成テ領主ノ命有テ掛渡ツラムサラデハ大堰ヲシ水路ヲヒラクニモ他村ニテ諾

マシクソ縣神社ノ條下ニ記ス如ク此ハ八賀川ノ上ヲ掛渡タル長

樋ノ水モテ數十町歩ノ田ヲ作レリ姓氏錄上卷ニ巨勢槭田ダノ

朝臣雄柄宿祢四世孫稻茂イナモチノ臣之後男荒人天豊財重

日足姫天皇極謚皇御世遣佃葛城長田其地野上溉水

難至荒人能解機術始造長槭川水灌田天皇大悅

賜槭田臣姓也トアルニ自然イト能似タルハ勤イシメカリケル功ニゾ

アリケル此寒川村ノミ限ラズ三郡村ノ山間ノ田ハ皆種ニテ水ヲ引テ田ヲ作ケシカレハ國名斐太モ稻茂ノ臣ノ後ノ槭田朝臣ニ縁アルコトチスメリ

渡ト鴈ガン橋長十二間幅二間下切村へ掛渡高山ヨリ越中往還ニ在名義

詳ナラズ

寒川サムカハ晒布

此村ノ婦女ハ毎年ノ春ノ内ハサラ之農業ヲ始ムルマデハ家ゴトノ

老婦少女キソヒテ乾田サシタニ出ラ布ヲ晒セリ其ハ大野郡白川郷

吉城郡小島両山中ノ村ニ高原郷中其外國中ノ村里ニ織シ布

ヲ商人買得テ此村家ニ託テ晒サシムルニ寒川ノ水ノシカラシムル

所以欽他村ヨリハ勞少シテ利多ク一家ニテ數百端ノ布ヲサラシテ

ソノ賃ヲ得テ年々ノ餘業トス其盛ニハ春キテモ猶里モ狹ニ降

ル白雪カト見ユルバカリニテ一奇觀ニコソ侍レ

劔ツルギ淵フチ

米四百石
 穞米十二石二斗
 大麦四十九石
 小麦八石五斗
 大豆二十石
 小豆六十一升
 粟二十七斗四升
 蕎麥二十石五升
 胡麻二升
 黍一斗八升
 荳蔻二石
 芋類二十石
 粟二十九石
 麻三十石
 指百十二石
 煙草二百斤
 藍葉三十石
 李柿栗楠
 大マユ二百八十石
 小マユ三百七十石

上廣瀨村

枝村 追分

和太 小山
 縦廿四町四十五間

横子二十間

高四百二十六石四斗九合

山林段別木数不詳

家八十二戸

人四百十四人

産物 真綿十把 生糸廿把 山トリ廿羽 鴨二羽
 小蘭 三斗八升 桑 楮 百十二石
 鱒 二百十本 鮭 八万五千
 野菜 野薑 八十本 芋 八十石
 牛蒡 八十本 菜種 油荳 藍 三十石

東方今村へ嶺越一里

西方村山村渡橋八丁

高山二里

南方三川村半里

北方廣瀨町村へ半里

村、名義ハ宮川、水脈寒川ヨリ和太ニ至リ兩岸ハサラ之川底モ大岩

石有テ川水激流追分、村下ニテハ川幅狭ク村山村ノ通路モ僅ナル

一本槁ヲ掛テ渡セリソレヨリ下ニテハ一瀧マタ阿治米瀧ナト云ル平瀧
アリテ流末ハ漸々川幅廣クナリ行シカモ川ノ兩岸マデ一面水満テ
處ハ瀨モ有故ニ廣瀨ト云ルナラム上古ハ一村ナリシラ後ニ二村ニ
別テ上廣瀨村ト唱ヘシニヤ有ラム
一瀧ニ瀧安治米滝ニテ平水幅ニ三間ニ下廣
瀨ニ至ルハ川幅半間ナリ其故ニ廣瀨ト号ケム

産土神賀茂神社
祭神上賀茂別雷大神
祭日 氏子

相殿 松尾大山咋神
春日明神四座
神名式大和國添上郡春日祭神四座鹿島座武甕

槌命香取座經津主命天兒屋命萬幡姫命猶祝詞考ニ詳ニ
境内一段六畝步 除地

産土神諏訪神社
祭神建御名方神
境内二段一畝十步 除地
祭日 氏子

廣瀨神 三代實錄第十四卷
清和天皇貞觀九年十月廿庚午 二度瀨神トテ

出サレタリ廣瀨町ノ條下ニ記

村山天満宮御旅祠
枝村小山ニ在無除地
菅公御木像鎮座

是ハ村山松森天満宮縁起ニクハシク記セシハ爰ニ畧

光壽庵跡
宗昔本寺廢絶年代凡不詳

上廣瀨村字 畠中ニアリ

大雄寺跡
六間ニ五間ノ地藏堂アリ

同村字
山上在天正壬戌丙戌羊金森家ノ命ニ依テ高山ニ移任

廣瀨何某墳

同村字垣内畠畔ニ凡七間許ノ塚上ニ古墳アリ其由不詳

早稻香清水

上廣瀬村字大川原ノ高山ヨリ古川往還ノ路傍ニアリ其味

甘美往来ノ諸人掬テ賞之

和太燧石 俗ニ和太石トノミ云

同村山内字和太洞ノ谷間ヨリ出此燧石ヲ用レバ火災ナシトゾ

三峰岩

同村枝村和太 寒川村ノ 宮川ノ岸ヨリ數間隔テ川中ニアリ水上凡

四五尺モ出テ見ユ三峰削成タル如ク自然峻嶽ノ形容ヲ成シテ

三峰ノ中間ニ窪穴アリテ池沼ノ如シ水數升ヲ入土人傳ヘテ曰

昔金鉢家ニテ賞美アリテ高山城中ノ庭ヘ引取ムトテ數人命

堀カリケルニ

數日ヲ経テ

得堀トラス

カリケルニ

風雨ハケシク

ナリテ大水出テ

岩根回ノゴトク

石ニテ埋リケレハ

是全神石ナラム

ト云テ止ストゾ

其後ハ得フクホリ

スル人々皆思ヒ止ヌ

トナム言傳ヘタリ



米八百七十石
 梅百三十石
 大麦百八石六斗
 小麦四斗石
 大豆二十石
 小豆三十石一斗
 粟五十石
 蕎麥二十石六斗
 菜種二十石
 荳一石
 芋類二十石
 桑八千九百六十石
 麻二百石
 楮五石
 烟草二百石
 藍百石
 李來來

廣瀨町村

縱三十一町 横一町五十間

高九百三十石六斗五升一合

山林段別木数不詳

家百十四戸

人五百十餘人

産物 小納真綿廿把 桑生糸七把 楮百石 牛蒡シケメ五百目 菜種辛石 油荳一石 藍百石 油一石

東方 二町村へ八丁ヨ 藁輪村嶺越

西方渡橋 名張村へ五丁 金桶村十丁ヨ

南方上廣瀨村へ半里

北方古川枝村大野十二町ヨ

村ノ名義ハ上廣瀨ニツヅキテ宮川ハ此村へ流来ニモ磧ナク向ノ岸ヨリ

此方ノ岸マデ平生ニ水満テ浅瀨アレハ川幅モイトヒロケレバシカ名ニ負ミナラム

大マニ二百六十八日
小マニ二百廿七目
市百廿足
稻蓮百束

土人ノ口碑ニツタヘタルニ此處ハ古シヘ國府ニテ家居連シ故ニ町ト唱
来シトイヘリ礼彦按ニ荏野冊子総社考ニ國造ノ事古ハ神事國
政一ナリシヲ孝徳天皇ノ御代ニ國政ハ國司ノ知事トナリ國ノ
神事ハ猶元ノマ、國造ノ知行フ御制ニテ云ハトアル如ク當御代ニ更ニ
新ニ國司ヲ下サレ國造ハ古ノ如ク國內ノ神事ヲ掌シラレバ旧府
ニ居國司ハ其處府離テ土地モ辟ケテ近ク便ヨケレバ此廣瀨ニ来
府ト定住テ旧處ヲ本府ト称レシナラムカ
當昔ハ羊号ヲ始凡字音モテ唱フル
コナレバ本府モ後モ羊音ニテ云ツルガ
其後ハ文字ノ府ヲ母ニカヘタルガ
後世ニホノブト云ルナラム
此村ニハ國府宮國府山同國府野ノ他據モ
多カレバ假初ニ土人ノ口碑ニ從ヒテ書ツイツルニナム

愛寶山紫雲見

三代實錄卷第二十三 清和天皇 御世紀 云貞觀十五年二月丙申朔云、
廿八日癸亥飛驒國司言大野郡 荒城郡ノ 誤リナルヘシ 愛寶山貞觀十三年
十一月十八日十四年十一月十二日今月十五日三度紫雲見ト見ユ
是ハ當時ノ國司此廣瀨ノ國府ヨリ見テ奏聞セラレシナルベシ
大野郡ハ本府ナレバ奏達ノ官人舊年ノ下、大野郡ト心得多シ
ニ依テ如此記サレケム 愛寶山ハ今世ノ 安房山ナルベシ其
古城郷ト古川郷ノ下ニ記シケム
廣瀨神社 古來國府宮ト唱
神階後止位下 國史十社之一座
産土神 加茂神社 上賀茂別雷大神 氏子
祭神 祭日
境内一段三畝廿四步 除地 中古合祭上賀茂大神
大野郡本府ヨリ國府ヲ此處ニ移セシ國宰ノ祖神ヲ祭リシニ因テ
國府宮ト称シニヤ傳ナケレバ詳ニ知カタクナム

廣瀨神社
祭神 和加宇加賣神

産土神明明宮

祭神天照大御神

元稱廣瀨神

祭神和加字加乃賣神

境内二段一畝歩 除地

祭日 氏子

是リ古シヘノ國司此處ニ拜祭リ奏言ニヨリ神階昇進マシ坐ケル廣瀨
大神ニ坐スベシ其ユエハ

○文德天皇實錄第三云仁壽元年正月甲戌朔庚子詔天下諸神
不論有位無位叙正六位上

○清和天皇御紀三代實錄云貞觀九年十月廿日庚午授飛驒國正
六位上大羊神云々度瀨神道後神從五位下○荏野冊子
總社考云度瀨神ワタリゼト訓ベキカ若度字ハ廣ノ誤
廣ト

廣瀨神社條

△廣瀨郷廣瀨村廣瀨
神ト稱ル類ハ諸國ニイト
イト多シ枚舉ニ違アラズ
度ハ廣ノ古畧字ノ度
ヨリ誤来ツラム

紛安シ万葉廿卷^{六十一}防人茨城郡舎人部
廣^{ニテ}是ヲ元曆本ニハ度^ト是ト作リトゾ

郡廣瀨郷上廣瀨村下廣瀨村アリ其處ニ座ス神カトアル

如ク廣瀨神ナルベシ^{度瀨トイヘルハ宮村ニモ門和佐村ニモアレト其ハ}
只涉スル瀨ノ名ニコソアレ諸國ノ地名ニモ神社ニモ

ナキ名^{ナリ}和名抄大和國廣瀨^{此呂}郡武藏國入間郡廣瀨

世^{北呂}郷出羽國置賜郡廣瀨郷筑前國上座郡廣瀨^{此呂}郷

有^{其他廣快廣西廣世}神名式大和國廣瀨郡廣瀨坐和加字加乃

賣神社^{名神大月}伊豆國田方郡廣瀨神社武藏國入間郡廣

瀨神社ナト諸國ニ数多アリテ全ク地勢ヨリ^{村名義ニ}村名ニモ又

神社名ニモ後ハ一郷ノ名ニサヘ負ハシテ明白ナリ○古史傳四

卷^平云若字迦能賣神豐宇賀能賣神大宇迦神若モ豊モ

大モ共、称名ニテ異ナル意ナシ式ニ大和國廣瀨郡ニ廣瀨ニ坐ス
和加宇加乃賣神社名神大月次新嘗 此社ハ天武天皇紀四年四月

癸未遣小錦中間人連大蓋ハシヒト大山中曾祢連韓大祭大忌神

於廣瀨河曲此時始テ祭玉ヘル状ニ聞ユレド然ラス云、コハ崇神天皇ノ御世ニ
上祠玉ヘル社ナルヲヤ此處ニ鎮坐ルヲハイト上代ヨリノ

事ナルベシ此社ノ縁起ニ大忌廣瀨社ト見エタルヲ始メ龍田風神ト共ニ
若宇加乃賣命伊勢外宮分身也云々

御代、重ク祭ラセ玉ヒテ位階モイト高ク坐マセリ文德天皇紀

嘉祥三年七月丙戌從五位上仁壽二年七月庚寅從四位下

同年十月甲子從三位ヲ加ヘ玉ヒ陽成天皇紀元慶二年七月

廿六日廣瀨龍田兩社造立倉各一宇為納神寶ナド見エ

タリサテ此社ヲ大忌神ト申シ大忌祭トイツモ風神ト共ニ

祭リ玉フハ崇神天皇ノ御世ニ風神ノ御託ヨリ始レル事ニテ

穀物ノ豊登ラムヲ祈リ玉フ神事也古史傳四卷ト廣瀨大忌祭ノ
祝詞考ニ妻ケレハコニ首キツ

カ、ルヤムゴトナキ大御神シ坐セバ古シヘ此處ニ國府ヲ移シテ住レ

ケム當時國宰タチモ廣瀨神ヲ拜祭リ度、奏上テ神階モ

進玉ヒシナリケム國府ニ廣瀨ノ神ヲ祭リテ近村ノ金桶ニ
龍田神ヲ祭ラレケムトユエアルベシ 抑本原ハ大和

國廣瀨大神地名モ同ク穀物豊登 此處ニ勸請セルニテ其ハ伊勢ノ

外宮ノ大御神ト同神也坐セリト聞テ伊勢ト申セバ内宮ノ

天照大御神トノ思遺奉リテ神明宮ト称シ故ニ元祿ノ檢地帳

ニモ寶曆ノ除地帳ニモシカ記タリケム今モ伊勢兩宮ハ天照大御神ト
ハ心得テ外宮ハ豊受大御神ト

称奉ルヲ不知人多シ既ニコトシ明治三年春外宮ヨリノ配札ヲ見テ驚キシ人多カリシ
トソイテ、愚ナルナレモ神典ヲダニ拜讀セザル國ノ方俗ナレバ如何トモ為方ナシ

石高ハ豊臣家ニ始レリ
金林氏飛驒討入ノ頃ノ
事ニ大日殿歩ハ天平十三
年國分尼寺施入水田十
町ノ御寄附下リシ頃迄
塔ニ大日如來安置ナリ
行行レシ字ノ廣瀨町在
葉三日町古川上町等ニ
今モ殘レルナラハ然レモ金林
家ヨリ高百廿石寄附ノ
的證アリヤ

大日堂

本尊
境内一畝廿三步 除地

此堂邊ノ耕地ヲ俗ニ廣瀨ノ大日段歩ト唱
方言ニ田圃ト云ハ田面ノ訛
ニヤ段歩ノ字音ノ如ク聞ユ

蒲八十村ノ見聞録ニ廣瀨大日段歩ハ元鶴葉村ニテ高百廿

石ノ除地ナリシトゾ其内ニ仏供田燈明田等ノ字今ニコレリ

元祿ノ檢地ニ廣瀨町村ノ公田ト成ノ然共大日段歩ノ組頭ハ

旧ノ如ク鶴葉村ニテ勤米納ハ廣瀨町ノ後ニ別ニ其貢米ヲ

收納ル旧例ナリトゾ

觀音堂

本尊

境内九畝步 除地

何レモ古シハ國府タリシ頃官許ヲ蒙テカク廣境内ヲ寄附有シヤ
不詳

地藏堂

本尊

境内廿八步 除地 俗ニ傳云古廣瀨氏手植ノ淺黄櫻大木タリシガ

文化年中枯果テ方今ノ其繁生ナリトゾ

西念教寺

東本願寺宗高山照蓮寺末
天文八巳亥年開基

本尊阿彌陀如來
境内屋敷五畝五步
元祿七甲戌年檢地名受道場太郎左衛門
同十二年巳卯年除地其後今ノ寺号ヲ唱年代不詳

山崎古城

神明平ト云山ニ僅ノ平地ニ跡アリ
俗ニ比丘尼カ城ト云來由不詳
東西二十間
南北十間

廣瀨 利治 何某 年代 不詳 初メ此城ヲ築テ位敷村ヲ押領ノ後田中城ニ移リシナラハ

櫻野

一名云國府野

土人口碑ニ傳云古シハ廣瀨何某 名モ年代モ
詳ナラス 名張村ニ田中城ヲ築キ其處

後曰
田中城

飛驒國城址記

天文ノ頃ニテヤ有ツラム廣瀨庄近將監利治

新

ヨリ眺望ノ為ニ大和國吉野ヨリ七種ノ櫻ヲ取寄植ラレタル餘波
也トゾ年代不詳其ヨリ年来成木蕃茂シテ近世マデ毎春高山古川ノ諸人遊歩
觀花場タリシカ明治元年冬伐拂テ新田ヲ墾闢ス數百ノ櫻樹ヲ

古窟ニ国府宮内ニアリ
国府味ノ麓ニアリ

土人ハ上古火ノ雨ヲ避タル窟也ト云ルトゾ飛州志ニモ古窟ノ部ニ
西一色ト此廣瀨ノ窟ヲ並載テシカ記セルハ可笑ナリ和訓栞ニ
比左米ハ雨水又大雨ヲヨメリ云々日本紀ニ一處火雨ト有ラ和名
抄ニ引タレド大雨ノ誤寫ナルベシ世俗ニ火ノ雨ト心得シモ是也ト
アルガ如シ按ニ廣瀨町ハ古シヘ國府ナレバ數百年ノ内ニハ國守モ
其下官ノ人ニモ幾人カ身ウセシ人有ツラム其葬窟ノ石櫛ナルベシ

西一色ハ倍字ニテ村ニ詳ニ記セリ古事記傳ニクハシ和訓栞ニモ出

タリ国府宮ノ傍ニ石棺ハ如何ナレド身マカリシ人ハ當社ヲ勸請セシ賀茂ノ神胤ヲ

鍋塚昔ハ飯塚ト 亀塚宇塚原畠畔ニアリ
云シトゾ 大塚トモ挽塚ト云

是モ古窟ト同ジク古ノ葬塚ナルベシ其人ノ庖厨具ヲモ埋メシ故
カク名ツケシナラム亀ハ瓶ナルベシ當村民畠中ニテ瓶ト小皿トラ
塚イタセルモ古葬塚ニ埋ミタル厨具ナルベシ

米百三十六石
 稗十六石
 大麦十三石
 小麦十三石
 大豆八石
 小豆四石
 粟十三石
 蕎麥十四石
 胡麻一升
 荳蔻一石
 粟十石
 楮十石
 梅李梨 麥 芋

村山村

縦十町 横一町半

高百三十二石七斗七升六合

山林段別木數不詳

家十五戸

人七十餘人

産物 上廣瀬同 大マニキメ月 楮十石
 小マニキメ月 鱒三本

東方上廣瀬村へ渡橋八丁

西方糠塚村へ半里

高山一里半

南方下切村へ十丁

北方金桶村へ十八丁

村名義ハ和名抄ニ出羽國村山郡村山郷最上郷ニモ村山郷
 アレトモ其ハ其地勢ヲ見サレハ據トハ為ガタシ此村山村ハ

柳粟
大マユ二十ノ目
小マユ百キメ目
布十疋
布苧二十束

アレ只一重山ナレバ群山トハ云カタシ万葉一奇山帯庭村山故按ニ
上代ニ村山連ノ此處ニ来テ天神タチヲ朝夕敬祭ラレシ村故
終ニ村名ニ負シニヤ

産土神村山天神社アツタノ松森鎮坐 神階

祭神 諸天神 津速魂命 天兒屋根命 菅原贈大政臣英靈 追祀

後世追祭 祭日 氏子 村山村 上廣瀬ノ内

境内六段歩 除地

志賀高穴穗朝成務御世大八掎命斐陀國造ニ任サレテ京ヨリ初

國府後云来リ玉ヒテ朝廷ノ御例ニ准テ此處ニ諸天津神ヲ敬

祭リ國府ニ諸地祇ヲ山城國綴喜郡マタ齋祀リテ奏達玉ヒシナラム

依テ神ト君トノ御中ヲ執持テ申ス職ナル中臣連古事記傳十五卷

ノ同氏ナル村山連ヲ朝廷ヨリ下サレケム甚事故天神社ノ座

處ニ任シケル村故村山村ト称シ村山氏ノ朝夕拜祭ラレシ社ナレハ

村山ノ天神ト称シケルヲ後世文德天皇仁壽元年初テ叙位

清和天皇貞觀九年神階昇進玉ヒシナラム○姓氏錄河内國

神別村山連中臣連同祖中臣連大中臣朝臣同祖津速魂命

三世孫天兒屋根命之後也トアレハ村山連来任テ天神ヲ拜祭又

祖神ヲ合祀ラレケム○文德天皇實錄第三云仁壽元年正月云

庚子詔天下諸神不論有位無位叙正六位上トアリテ後從五位下ニ

進ミ玉ヒシハ國史ニ脱タリ○三代實錄第十四卷云清和天皇

貞觀九年十月五日庚午授飛驒國從五位下水無神、荏名神

槻本神、大津神、荒城神、云々並從五位上トアル大津ハ天津ハ後世傳寫ノ誤ナラムトゾ思ハル

○延喜式神名帳、飛驒國八座並トアル内荒城郡五座並大津

神社荒城神社云トアル延喜ノ國宰ハ上代ヨリ言傳ノマ、天津

神社ト奏シツル當昔村山氏ノ有無ハ知レガタシ後世傳寫ノ人三代實錄ノ傳寫ノ

誤ヲ正ト見テ大津神ト書ツラム其後專ラ字音モテ唱ヘシ世ニ

成テハ打ツケニ村山テムジハ天神トノニ稱ツラム延喜式神名帳ニ畿内始諸國ノ神社名誤字多シ三代實錄ニモ

本世ノ本母ニ誤リ廣瀨神ヲ然レニ○大日本史百三十三卷菅原道真列傳

ハ丁ニ出後世ノ音書ナレバ水ハ皆是古書ヲ引テ記レリ云天曆中民間建祠于北野祀道真之靈稱曰

天滿天神尔後無貴賤崇奉轉盛朝廷亦以八月四日設祭祀

入二十二社之數寛弘元年始行幸北野自是歷朝相承奉幣

不絶世稱聖廟郡國往々建社畫像以祀焉子云々兼茂藏人

正六位上左降飛驒權掾トアルヲ思ヘバ其無茂朝臣ノ縁トイヒ太

宰府北野ヲ始メ諸國ニテモ專ラ祭レル菅公ノ英靈ノ御事ナレバ

花里ニテモ祭リタレハ此村山ニテモ天神社ニ合祀タルヲ後ハ本ヲ知

ラス菅公ヲノミ祭レル社ト村民ハサラニ國中ノ諸民モ一同ニシカ

思違ヘ来ツルナルベシ五畿内并伊勢紀伊國等ノ名所國ニモ天神ト

天滿宮ト混タルヲ處々ニ見ユ其後アマタ星霜ヲヘテ應永十八年

國司戦死家族敗亡ノ後其家ニ傳來菅公御自作ノ靈像ヲ

初テ此處ニ祭テ社ヲ建タル由ノ縁起アレバ其上代ノ事ヲ聊モ

不知者ノ所為ナルベシ○元祿檢地帳宝曆除地帳除地六段歩
天神宮地トアリ其頃モ天津神ト申コトハ知ラズヤ有ケム○
飛州志吉城散祠ニ村山村天満宮トアリ鹿略ナルナリ○
神名帳考證ニ大津神社ハ旧事記云大年神子大土神亦名
土之御祖神ト有禮彦按ニ大津ト大土ト同言ト思シヤ又出雲
風土記ヲ引テハ東水臣津野命等ニ牽強シ津字ノ縁ノミニテ
證ト為カタシ○荏野冊子總社考ニ大津神社所在未詳今
吉城郡舟津町村ナル諏訪明神社是故本舟津ハ今ノ地ヨリ
北方ニ人家アリテ古ヘ大津ト云シラ時々水害ニ遇シニ依テ今ノ地ニ
移シテ舟津ト改メシ故今モ彼地ニ大津屋ト云者アルハ其餘波

ニトゾ此諏方社ハ今ハ川中島舟天ノトナリシ地ニ在シラ舟津ニ家ヲ轉
小祠在
シ時今ノ地ニ遷坐シメ奉レリト云傳タリ然ハ今諏方社ト申ハ
即本ノ大津神社ナルベシト其里人稲田元浩イヘリトアルハ全ク
稲田元浩辯舌ヲ以テ荏野翁ヲ欺ムキシナラム彼北方ナルハ字大
島ニテ檢地帳目論見
限其外モ明ニ況大津屋ハ魚津屋ナルヲヤタトヒ何ト云トモ當
時ノ家名ヲ以テ十年前ノ神社名ヲ確定ノムトハ荏野翁ニハ
似合ガルワガナラスヤ是ハ神名帳ノ神社ハ郷ノ次第ヲ嚴正シク
一郷ニ名アル御神ヲ一社ヅ、撰定テ奏言ラレタル當昔ノ國事ノ
深慮ヲ露バカリモ知ラデ式ヲ讀レシ故カ、ル妄言ニ欺カレタル
ナラム嘉永元年三月礼彥彼川中島ヲ檢シケルニ村民ハ其字ヲ古諏訪トイリ
其ラ古大津トハイハサレニテ明白ナルヲヤ猶其カニクハミク云ヘシ

猶ヨク考フベキ事ニケリ式ニ山城國級喜郡天神社地祇神

社備前國御野郡天神社國神社其外天神ハ諸國ニモ数多座リ本土ナルモ

村山天神社本母ノ國都神社ニマス疑ナキ物ヲヤ然ルヲ誤トシテシテ天津トセムハ

本母ヲ本母ニト思ヒ廣瀬神ヲ度瀬神ニト思フカ如何ニ如此世ニ有ガタキ天

神ノ鎮座マス處ニテシカモ古シヘ其ヲ祭ラレシ村山連ノ姓氏ノ村名ニ

成シホドナルヲ村民等カールトトハ夢ニモ知ラテ代ヲ過ストハ豈淺

マシキコトニ侍ラズヤ古シヘ地祇ヲ祭ラレタル本母村其他モ皆同シ

心アラム人々ハヨリ其村民ニ教諭テムカシ

○因ニ記近世村里松森天満宮縁起ト云物アリ一口タリハサルコト有

ベケレド今少シ如何ニ思ハル其ハ應永十八年ヨリ初テ天満宮ヲ祭リシ

由也古川人ノ妄作ナラム應永年中ヨリ前ニハ神ヲ祭ラザル村トノ思ヘルニヤ可審前ニ引ル古書ノコトハ聊モ見ザレハ

證ニハ成ガタケレド今マデハ其縁起ヲノミ用タレバ捨ムモサスカナレバ

次ニ記加ヘテ後人ノ考ニ備ルノミ

村里松森天満宮縁起

飛驒國吉城郡村山村ニ鎮座マシマス天満宮ト申奉ルハ人皇九十五代

後醍醐天皇御宇御代宰相藤原頼繩繩成卿作鑑飛驒國司ニ任シ

五ヒ建武二年乙亥五月下旬當國ニ御下向アリ吉城郡小島

郷ニ御館ヲ建テ國政ヲ司リ玉フ其砌葉師如來ノ尊像ト管

相公ノ御自刻マセ玉フ靈像トテ御代々ノ御宇トシテ館中ニ安

置シ御尊敬ナサレケリ四代目ノ國司參議尹繩卿ノ時ニ至京都

ニテハ足利義持公將軍ニ任シ玉ヘ氏飛驒國ハ南朝ヨリ立ラレタル
國司ユエ武家ノ命ニ隨ハサリケレハ管領右兵衛督義重朝臣等
相議シテ東山北陸ノ兵ヲ被促打テ下サレケル大手ノ大将ハ
京極近江守高員其勢二千五百餘騎美濃路ヲ經テ益田ヨリソ
向ハレケル擲手ハ小笠原氏部大輔持長甲斐信濃勢一千餘騎越中
國ヘ廻リテ北小島ロヨリ責入又一方ハ斯波家ノ長臣朝倉左衛門佐
甲斐小太郎ニ越前一國ノ勢ヲ相副テ穴馬郡上ヲ經テ大野郡ニ向テ
三方ヨリ寄懸タリ國司家ニモカネテ大軍向フト聞テ三郡ノ兵ヲ
被催三方ノ道ニ遣テ切所ニ支テ禦カレケリ然ルニ寄手ニハ業内
シリタル者ヤ有ケムコノカシコノ嶺ヲ越テ忍入不意ニ起テ小島城

下ニ押ヨセ無ニ無三ニ責立ケリ折節西風ハケシカリケルニ擲手ヨリ火ヲ
放ケル間數町ノ構一時ノ烟ト成七十七年四代ノ蹤迹忽燒野原ト成
スル社悲ケレ終ニ國司モ朝倉カ家臣井上新兵衛尉ト云者ニ被討サセ
玉ヒケリ誠ニ勞敷次第也頃ハ應永十八年辛卯八月十三日也扱北ノ
方漸ク御尊敬ノ面像ヲ取出シ奉乳母一人從者一人相具シテ竊ニ
城中ヲ逃出足ニ任セテ落玉フ後ヨリ追手ノ來ルトモヤト怖シケレハ
一足モ先ヘト御心ハス、メ氏ナラハセラレヌ歩行ナレハヤウ、ミシテ廣瀬ノ里迄タリ
付玉フニ大ニ勞レ玉ヒケレバミシ休メ參ラセムトテ其知ノ民家ニ助入奉ルニ老人
夫婦ソレヲ見テ々、人ニテハ有マジト思ヒ湯茶ナドヲ捧ゲ念頃ニイタハリ
二三十日ガホド隠シ置奉リケレド國中不殘敵、地ト成ケレバ長居シテ

トモ危ク思召玉後三人髪ヲ剃テ亡君ノ菩提ヲ吊奉ラムト姿ヲ
ヤツミテ出玉フ御心中推ハカラレテ哀也其時兩像ヲ其家ニ残シオキ
玉ヒケルヲ主ノ老人村人ニ語り合テ同村ノ上洞小山ト云地ニ小社ヲ建
安置シ奉リ近辺ノ人等尊敬イタシケリ其後イツノ頃カ有ケム盜賊
彼兩像ヲヌスミ取川ヲ渡リ逃行ムトミタルニ不思議ナル哉脊オヒタル
菅公ノ靈像忽重ク成玉ヒ一足モ歩行ナリガタク成ケレバ靈像ヲ其
アタリノ藪ノ中へ投込葉師如来ノ像バカリヲ持テ行方シレズ成ケリ
上洞小山ニ當初ノ社ノ跡今ニアリト云或夜村山ノ何某靈夢ヲ蒙リ未明ニ起出村人ヲ
カタラヒ其處ニ至リ草ヲ分尋ルニ早速見出シ奉リ拜スルニ少シノ
イタミモ坐マサバリケレハ且感シ且喜ビ我家ニイレ奉リ村人ウチ寄リテ

尊敬シ奉リケルニ猶此地ニ御鎮座マシマスベキ御告ニ依テ當時ノ領主
ハ申上ケレバ御感アリテ六段歩ノ社地ヲ御寄附有シニヨリ其外ニ御社
ヲ建立シテ村上村ト曰ノ上廣瀬村ノ内小山ノ家々トノ鎮守ト
崇メ奉リケルニ其頃一夜ノ中ニ數千本ノ小松生出俄ニ繁茂シケルハ
寔ニ神慮ニカナヒタル故ナルベシト皆人奇異ノ思ヲナシ弥信仰
シ奉リ松森ト云ハ此縁也元祿ノ御檢地ニモ御除地ト成テ今ニ
繁榮マシマス也

此縁起ハ事實ハサモ有ベケレド末ノ文ノ一夜千松ハ京ノ北野ノ
名高キ古事ヲ羨ミテ附會セシ説ナルベシ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

糠塚村

縦十三町 横一町

高百二十一石二斗四升一合

山林段別木数不詳

家二十八戸

人百四十餘人

産物 村山ニ同

大マニ三十メ目
小マニ百メ目

指五十メ目
藍三十メ目

南方山

北方山

西方瓜菜村 半里

高山一里三十丁

村名義ハ土人口碑ニ村ノ中央ニ周二百歩許ノ圓丘アリテ恰モ糠

ヲ盛シ如ク見ユル故ニ古来糠塚ト名付ルトゾ

米百八十四石 糠半二石
 大豆九石四斗 小麦六石二斗
 粟石八斗 蕎麥一石二斗
 胡麻三斗 荳蔻一石六斗
 芥子三斗 芋三斗
 茄子生草 五石七斗
 柿三斗
 栗三千三百目
 麻二千七百目
 櫛三斗
 柿梅桃李梨栗
 大マニ四百九百目
 小マニ七百目
 布留疋
 榴蓮千二百束
 和泉國各所國會三卷泉
 南郡三卷泉
 マリ何人ノ古塚ト云フ
 シラノ南海道往來旅人不知ニ此所ヲ通ル者必落馬ストゾ敬礼ヲ類突ト云ヨリ大礼拜塚トイヒ又村号ヲ礼拜塚ト云フ何人ノ神靈ノ留レラムカマホニ以

産土神白山社

三社大

祭神白山^三神

境内六畝九歩

除地

祭日

氏子

白山神社舞殿跡

境内十四歩

除地

来由未詳

荒神洞

祭神ハ坐サレ^レ此洞ニテ薪ヲ伐レハ山神ノ崇アル故ニシカ唱来^レトゾ

凡テ国内何レノ村ニテモ山神ヲ荒神

人ノ妻ノアラフレヲモ俗ニ山神ノタリナリ

ト唱フルトナリ

サレハ大山祇神ト聞ユレド非ルベシ玉禰^{ハ十九}

竈神ノ注ニ火神ハ

伊弉那美神ノ御語ニモ心惡子^{モロアラケルミ}ト詔ヘル如ク御心アラク坐マシ火ニ穢

アル時ハ荒ヒ玉フ神ニ坐故カ古クモ荒神^{アラカミ}ト申セリト聞エテ木國ノ

玉置山ニ荒神^{アラカミ}祭神社ト申アリテ火神ヲ祭レル社ナリト天野信景カ

塩尻ニ見エタル由ナレバ此ニ言モ穢アル山ノ木ヲ伐テ薪ニスレハ竈神ノ崇

有ト云フノ紛レタルニヤ有ム猶ヨク尋ヌヘキフナリカシ

金桶村

縦十五丁 横二町

高三百二十二石九斗一升八合

山林段別木數不詳

家四十四戸

人二百三十餘人

産物

廣瀬町ニ同

大マニ二十五目 小マニ百十目

楮二十目 生糸七把

ハエ三百 ウクヒ七十 サコ千百

米三百十九石
糠三十五石
大麦二十石
小麦八石
大豆十五石
小豆二石
粟一石二斗
蕎麥二石
黍一斗
胡麻一斗
荳一石

菜種 三石
 粟 二百廿月
 麻 六十日
 楷 二十日
 梅 李 古 梨 麥 李 栗
 大 二百廿月
 小 二百廿月
 稻 筈 百束

村、名義ハ土人口碑ニモ傳ハラス和名抄其外諸國ノ地名ニモ延喜
 式神名帳ニモ姓氏録ニモ凡テ出タルナケレバ考得カタシサレド
 國史ヲ探覽ニ歴朝廣瀨龍田、兩社ヲオゴソカニ祭玉ヒシ事ニ
 據テ熟思ヘハ此名張郷廣瀨ハ古シヘ年代ハ詳ナラネド國府ニ成テ當昔
 國宰モ任レケム世ニ彼方ニ廣瀨神社此村ニ龍田神社ヲ拜祭
 ラレシナラム其故ハ龍田ノ風神祭ノ祝詞ニ龍田タカタ稱辭竟奉云々
 奉宇豆タニヲルカヅ乃幣帛者云々此賣神カモ御服備金ミソツチヘ能麻苧金能チケ搦金
 能タセヒトケルタヘ照妙和妙荒妙五色能物モノ云々トアルヲ誦上テ祭ヲ祭リシ
 故ニ金麻苧ト村名ニ負シテ延喜民部式ニ凡諸國、部内郡里等ノ名並
 用二字必取嘉名トアリシニ依テ金桶ノ二字ヲ用ヒラレシニヤ侍ラム

産土神富士神社

祭神木花之佐久夜毘賣命
 境内五段歩除地

古史傳百四十七云木花之佐久夜毘賣命者坐駿河國福慈岳也

産土神七柱神社

但除地帳ニハ七神推現宮ト記セリ
 元禄年中ノ檢地帳モ然ルヘシ
 龍田坐天御柱神社二座
 龍田比古神社二座
 外三座不詳

境内七畝十五歩

延喜式神名帳ニ大和國平群郡龍田坐天御柱國御柱神社二座並名神大月次
 新龍田比古龍田比賣神社二座トアル是也古事記傳辛ノ風神志那
 都比古神、下ニ出テ古史傳三卷六十五龍田立野ノ條ニ委シ縣居翁ノ説ニ

云々天御柱國御柱神社ト龍田比古龍田比賣神社トヲ別ニ舉
ラレ今モ別社ニ齋奉ルハ和魂ニキミマテ荒魂アラミタマノヨシカ方葉歌解九ニ吾去者ワカキキハ
七月ナメカハスギシ不過龍田彦タツタヒコ勤此花乎ユメコノハナツツ風ニ莫落ナラスナ
此金桶村ニ木花之佐久夜鬼賣ヲ
祭レルモ此哥ニ縁アルコトナスメリ

天武天皇白鳳四年四月癸未遣小紫美野王小錦下佐伯連
廣足祠風神于龍田立野トアルヲ始メテ持統天皇ノ御世マテ
ハ大方毎年四月七月ニ廣瀨ノ社ト共ニ祭リ王ヘルヨシ御紀ニ見エ
タリ稱徳天皇神護景雲三年七月遣使奉幣於此畿内
風伯桓武天皇延暦十八年六月戊子勅祭祀之事在徳共敬
心不致敬神亭享之廣瀨龍田祭所以鎮弭風災禱祈
年穀也云々嵯峨天皇ノ弘仁十三年八月龍田神ニ從五位下ヲ

授奉リ玉ヒテヨリ歷朝神階ヲ加ヘ玉ヒテ清和天皇貞觀元
年正月奉授正三位トアル如ク歷朝イト重ク祭リ玉ヒケレバ
廣瀨ノ國府ニ奉任レハム當昔國宰モ京ニ習ヒテ名張郡ニ廣瀨
龍田ノ兩社ヲ勸請テ祭リタリケム猶此御神ヲ諸國ニ敷ク
祭ラレケム中ニモ伊勢大御神宮ノ攝社ニ座ルハ弘安四年六月
蒙古ノ賊船ヲ悉ク覆没ノ靈驗ニ由テ正應六年ノ官符ニ社
号ヲ改メテ宮号ヲ授ケ官幣ニ預リ玉ヒシト之又風日祈宮トモ
申テ風雨時ニ隨ヒ年穀豊熟ヲ守ラセタマフ御神ニ坐ハ諸人
尊敬テ拜祭ベキ事ニソ有ケル三代實錄ナル安藝國風伯神
從五位下マタ伊豫國風伯神從五位下トアルモ此金桶村ナルモ皆同シ

御神ニヤ座ラム

飛州志ニ金桶村七社権現ハ由来未詳按ニ祭神伊勢春日

石清水稻荷加茂松尾平野ナルカト有伊勢加茂石清水等ヲ

権現ノ部ニ附會セシハ如何ナル心ニカアリケム

年代ヲ經ルマニ村民等ハ龍田御神ノ事ハ忘テ申ツタヘモ失テ

何事モ僧徒ニ物ヲ問世ニナリテ當昔千光寺等ノ僧徒等已ガ得

手ナル比叡山ノ山王七社権現ナルベシナド言消ニ欺レテ其後亦山王

テフコトモ忘レテ只七社権現ト云シ故ニ元祿ノ檢地ノ頃モシカ記セ

シニヤ

名張村

縦十一丁 横三丁半

高四百八石九斗七升

山林段別木數不詳

家七十四戸

人三百三十餘人

産物

廣瀨町同 大マユニ十三目 真綿十八把 楮十五目
小マユ百十目 藍二十目

東方廣瀨町村渡橋八丁

西方瓜菜村越阪半里

高山ニ二里半

南方金桶町渡橋八丁

北方宇津江村十八丁

村名義ハ和名抄ニ伊賀國名張郡名張郷アリ和訓栞ニ日本紀ニ

隱字ヲ訓リカクルノ古語ト見ユ方葉集卷第一 郷名義ニ出セルハ首ニヨヒニテ 暮相而

米三百三十石
柳三十六石
大麦二十八石
小麦四石一斗
大豆八石一斗
小豆三石一斗
粟四石一斗
蕎麥八石
菘一石五斗
菜種八斗
胡麻二升
粟三十四石十目
楮十五目
藍葉二十目
李八斗
栗八斗
楮一石二斗
大マユニ十三目
小マユ百十目
真綿十八把

朝面無美隱爾加氣長妹之廬利為里計武同解四上ワカレコハ
何處將行已津物隱之山乎今日欣起良武同解八ヨヒテアミタオモ
羞隱野乃芽子者散去寸黃葉早續也世ウトナハリハ隱ルノ古語也
由畧解見ニ地名或ハ名聖氏カケリ大平記ニ名張八郎見
大和國ニ吉隱モアリ

産土神一宮

祭神水無大神
境内廿一步除地

祭日

氏子當村七十四戸

此社ハ土人口碑ニモ一宮大神ヲ古ニハ勸請セリト云元祿檢地帳賣曆
除地帳ニハ例ノ一宮大菩薩ト記タリ祭神ハ一宮ニ記セシ如ク御
羊神ト神武天皇ト應神天皇ニオハミマスラム

藥師堂

本尊
境内一畝六步 除地

觀音堂

本尊
境内廿四步 同

田中古城

本丸 出丸 東西十二間
南北八間

飛州志云田稱廣瀨城ト云廣瀨氏在城中里説云昔廣瀨殿年代不知此城ヲ
唱ナルベシ

藥後山崎城ヨリ移任テ宮川ノ北ナル廣瀨ノ國府野ニ大和國吉野山
ヨリ櫻ノ苗木ヲアマタ取ヨセ植サセテ追年繁茂シケレバ花ノ盛ニハ城
樓上ヨリ毎春眺望セシトゾ其ハ廣瀨左近將監利治ニヤ其後瓜菓
高遠一作高堂ハ
非ナルベシニ新城ヲ築テ移任此名張城ハ其家臣タル田中興三左

衛門某ニ興ヘテ任シムニハ田中城ト云欲廢絶ハ天正十三乙酉年金森
 家ノ軍勢ニ焼討ニ過シカ古城跡土中於今焼米アマタ残レリ田中
 興三左衛門事蹟不詳

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

瓜ウリス巢村 枝村

早稻洞ワセボラ

縦二十五

横一丁半

高四百七十石八斗五升三合

山林段別木数不詳

家百一戸

人五百二十餘人

産物 小大前九月六日 菜三月八日 瓜類三月八日 生イト四月八日 石灰四百俵 野菜丁二十六日 山菓 茵 麥李サモハ 筍タケノコ 乾瓢カンヘウ 薪クサ

東方 金桶十丁 名張半里

西方山

高山二里

南方 赤保木上切 嶺越一里

北方 宇津江へ嶺越一里

村名義ハ上代ヨリ瓜ヲ作ルニ相應ヘル地ナレバ菓ハ借今世 瓜今世 柿今世 ナラム 上野ノ

西瓜シカ 漬瓜シカ トモテハヤスニ 万葉六畧解 歌ニ指進乃栗シカ 柿乃小野之芽花シカ 云々

米七百半石 稗二十六石
 大豆十六石半 小麦八石半
 大豆十石半 小豆八石半
 粟一石半 黍一石半
 蕎麥一石半 菜種四石半
 菜九十石半 目 楮七十石 目
 栗七十石 目
 栗桶 桃李
 柿 麦李
 大丁三百八十石 目
 小丁三百八十石 目
 布六十疋
 菓ハ借字ナルマシキ
 下下 言言 シ

解和名抄大和忍海郡栗栖クルストミユ又抄播磨國揖保郡栗栖久留

紀伊國牟婁郡栗栖ナドアリ又大和國ナル久壽クズヲ諸書ニ國栖クズト

カケルニ同ジカルベシ日ノ片隅國スベテ須美スミヲ須トノミ云ルハ古言ナリトゾ

○催馬樂下ウマ也ヤ未之マ呂乃ロ已未マ乃ノ和太利ワタリ乃ノ宇利ウリ川カハ久利ク云ク

梁塵後抄熊谷直狛ハ地名山城國相樂郡瓜ウ名所トゾトアル

ゴトク此村モ古へ國內ニテハ瓜ノ名所ニテ國府近キ村ナレバ毎年

作りテ賣出シツラム其ヨリ村名ニ負タルナラム○古川大野佐藤

泰郷豪農彦左衛門曰江戸人橘守部催馬樂入綫云栗栖クルストハ栗ヲ生

シ立テ其子ヲ出ス地ヲ云リ今世ニモ木實野菜ウヲ出ス所ヲ栗スト云テ

ソラ賣初ムルヲ栗ス開ヒキキト云トイヘリ今此村瓜類能フサヘル中ニ壺ユ盧ルハ

殊ニ能フサヒテ今世モ乾瓢ニシテ高山古川へ出スイ多シ古シハ本母

廣瀬等ノ國府へウリ出シツラムサレバ此名ハ負シナラム○瓜ヲ宇留

トイフハ栗スヲ久留ト云ニ同シ訛言凡謂ガタクナム○栗スハ按ニ一枚後

瓜巢村諸山内深山

長者洞 駒ヶ谷 何レモ名義 大洞山 不詳

草

木 姫子ア撫フ 楠 松 栗 雜木

鳥 鷹トビ類

獸 猪

○築ハ按ニ櫟字ノ省ナルベシ書紀應神天皇十九年冬十月云々國櫟
人來朝云々今國櫟獻土毛之日云々夫國櫟者其為人甚淳朴
也云々玉篇云櫟仕交切澤中守草棲ヨツテトアルヲ見レバ栗子ヲ拾フ
如ヲ栗櫟トイヒ瓜作ノ假居ヲ瓜櫟トイヘルナラム

産土神加茂社

祭神上賀茂別雷大神
境内一段歩 除地

祭日

氏子

同熊野社

祭神須佐之男命
五十猛神
境内

祭日

氏子

廣瀨郷内ニテハ此村ノ幽邃ノ山中ニ住テ四方ハ山々多ク殊ニ水源

大野郡小鳥郷ノ彦谷山ヒコタニ大多和山ノ峰界南ハ大野郡三枝郷ノ見

量山ノ峰界ニテ山々廣大ナレバ年々山藁菟筍菌類ヲ取薪ヲ伐出

年ニ依テハ村木ヲモ伐出シ半ハ山幸ヲ得テ柵ル村ナレバ古ノ村民心得

テ木種ヲ施シ青山ナシ賜ヘル須佐之男命五十猛神御父子ヲ拜祀

タルニヤ有ム殊勝ナレ心バヘニレリ

見量山ノ南麓赤保木村ニモ熊野大神ヲ
祭リシハ縁アルトニヤ侍ラハ

産土神白山社

祭神白山比咩神
境内 無除地

祭日

氏子

高遠古城

飛州志ニハ高堂ト書タレト湯桶訓ニテ如何
今般村長ノ書上タル方然ルヘシ

飛州志ニ利仁將軍後裔廣瀨左近將監利治築之トアリ○大日本史
百三十七卷列傳云藤原利仁左大臣魚名六世孫也祖高房越前守

高房ハ淳和天皇天長三年美濃介ニ任シ
威惠無施テ殊勲アリテ世ニ名高キ人ナリ
父時長民部卿鎮守府將軍云々
利仁沉勇多謀畧諳兵機延喜中任鎮守府將軍至從四位下
下野高座山賊藏宗藏安聚結十餘人剽掠貢調云々利仁進至
山下時盛夏暑剽利仁命士卒多作橈云々夜半雪大作利仁命
士卒乘橈進攻之賊衆飢凍不復戰利仁縱兵奮擊大破之斬
獲居多由是威武大振トアル如キ希代ノ大将也○廣瀨左近將監
利治ハ其利仁將軍ヨリ幾代ノ末ニ生レタル人ナラム初メ廣瀨山崎城ニ住
後ニ名張城ヲ築移住其後亦此瓜巢ニ新城ヲ築移住ニヤ按ニ國司
姉小路家ノ附屬ノ人歟又ハ其家司ニテ小島某小鷹將某名告ミ
人ノ傍輩ニヤ詳ナラス

飛州志云利治之子孫廣瀨山城宗城兵庫頭宗直居之

廣瀨黨

廣瀨治利

家幕ノ級
同左近將監
トアレハ誤ニテ左近將監利治ナルベシサラダハ先祖ノ
范美或ハカ

同山城守宗城

山田紀伊守ヲセシツルハ此山城守ナルベシ
域或作城利治ノ子カ孫カ未詳○永祿元年三木光頼ト共ニ高山外記ト

○天正五年四月兵二百餘人ヲ出シテ小鷹將城主牛丸又太郎親綱ヲ責ニト夕古川ヲ
牛丸勢ト出達戰シカ宮谷寺仙山ノ坂ニテ和議ヲ結テ歸城
○天正五年四月兵二百餘人ヲ出シテ小鷹將城主牛丸又太郎親綱ヲ責ニト夕古川ヲ
敗
○同年四月三木松倉城ヲ築テ後宗城鍋山城主豊後守頭綱ト謀ラ合居タリシカ天正三
甲申年五月隱謀アラハレ頭綱害セラレハ六月廣瀨宗城同兵庫頭宗直開城降人ト
成宗城三木カ為ニ害セラル宗直出奔

廣瀨兵庫頭宗直

天正十二甲申年六月宗域ト此ニ三木ニ降宗域ハ宮セラレ宗直奔

天正十三乙酉年宗直ト故鍋山城主顯綱カ弟平野左近ト西人越前大野へ奔金表家
ニ屬飛驒征伐ノ郷導トナル

家臣

廣瀨介之進宗泰

同 織部

田中城主

田中與三左衛門

同 與市

磯村長十郎高衛

加藤半右衛門

天正十二甲申年ヨリ此高遠ハ三木ノ持城ト成レ同十三年乙酉年金表
法印軍勢引率ノ二ッ屋ヨリ討入高野ニテ勢揃ノ節三木休庵ハ本
城松倉ヲ二男鍋山豊後守秀綱ニ守ラセ自ラ兵ヲ分チ来リテ此城
ニテ防禦同年八月金表勢来テ城ヲ圍三木勢カナハズシテ休庵出テ
降ヲ乞其後廢城ト成ヌ

深淵



Vertical columns of faint Japanese text on the right page

寒川晒布

日
出
書
局





